

# 令和元年度 上田市立 浦里小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)
自分のよさを切り拓く子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで勉強しよう</li> <li>思いやりのある人になろう</li> <li>丈夫な心と体をつくらう</li> <li>ふるさと(浦里)に学ぼう</li> </ul>
	今年度の重点目標
	1 児童が意欲的に関わり合って学び合う授業づくり
	2 相手意識に立ち、意欲的にかかわり合中で自分も他者も大切にすること
	3 主体的にかかわり合中で、身体を動かし目標に向かって挑戦できる心身のたくましさ
4 主体的に友や地域の方と関わりあって問題解決をしようとするふるさと学習	

総合評価					
成果と課題					
A	B	C	D	改善策・向上策	
<p>・学校目標「自分のよさを切り拓く子ども」を目指して、研修を通して授業改善に取り組んできた。今年度は特に、「関わり合い」に焦点をあてて授業実践を積み重ねてきた。自分のよさを切り拓くため、すべてのことに意欲的に取り組んでいた。また、縦割り班活動を日々の生活の中で取り組んできた。他学年の子への思いやりを持って児童になっていく。1時間の授業の中で個対個、個対集団、集団対集団等のように、関わり合いを仕組み授業展開にも取り組んできた。子どもたちは意欲的に関わり合う姿は多く見られたが、子どもたちの疑問や課題を生かして問題解決を図る授業展開については、まだ不十分な面が見られる。</p> <p>・昨年に引き続き、外部講師による体みぎの運動及び姿勢教育の実施等により健康な体づくりへの意識は高まってきたが、マラソンの継続に学年差があった。</p> <p>・ふるさと学習においては、地域素材、人材にとっても恵まれている。地域の方やお助け隊の方の支援を受け、農作業・川あそび・地域探検・社会の歴史学習等の体験学習を行っている。地域の人と関わり合いながらも、体験だけに終わらない工夫、見通しを持った活動計画(単元構想)が課題となり、更に自ら主体的に追究していかれるよう、工夫していく必要がある。</p>					
○				研究テーマにもなっている「児童同士の関わり合い」学習問題の工夫、教師の出を少なくし、子どもたちが主体的になる授業作り。	
		○		相手意識や自己意識、両方を高めていくために必要なことは何か検討したい。相手が嫌がることも分かっているのに行動している。細かい部分の見逃さず、指導のあり方を考える。	
		○		朝、マラソンの定着の工夫を考えていきたい。児童が主体的にマラソンに取り組む工夫。	
○				お助け隊の方々がたくさん教えていただき、多くの成功体験をもらっているが、児童が主体的に問題解決をしていく事を探していきたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	総合的な学習・生活科	ふるさと学習において、問題解決学習を基本とした体験学習を確実に一単元以上で実践できたか
		学習支援ボランティアの導入	全てのクラスで複数の教科にわたり学習支援ボランティアを導入できたか
		運動の日常化の推進	マラソンを日常化し、休み時間に体育館や外で遊んでいる児童の数が昨年度よりも増加するような働きかけをすることができたか
	学習指導	学習問題・課題の共有	子どもたちが自ら追究したいと考える学習問題が設定・提示されたか
		コミュニケーション能力の育成	ICT合同授業や連学年授業を充実させ、友だちと関わり、学び合う場面が位置付いた授業が行われていたか。
		きめ細やかな個別指導の充実	はげみタイム・個別指導の時間は複数体制で指導し、基礎基本の獲得・活用力に伸びが見られたか
		意義を感じ、やりがいの持てる家庭学習	家庭学習の手引きや家庭学習シート等を活用し、家庭・保護者と連携して、定期的に評価することで、力がついていることを実感することができたか。
	生徒指導	基本的生活習慣	「早寝、早起き、朝ごはん」「明るくあいさつ」「自分からテレビやゲームのスイッチを切る」を意識して生活できる児童が増えたか
		良さを見る目と想像力の育成	授業で、友だちのおかげで自分がわかったり、変わったりしたことを振り返る時間をとることができたか。
	学校運営	地域との連携	コミュニティ・スクール
学校支援組織・PTA			コミュニティ・スクール実践目標のあいさつ・メディアを重点に、学校運営協議会や学級懇談会で取り上げ、地域・家庭と連携して取り組むことができたか。
研修		教科研究	研究テーマをもとに個人テーマを設定し、研修を積んだことが、子ども中心の授業実践に生かされたか
		各種研修	地域のことを知るための研修や教師として様々な子どもに対応できる研修が行えたか

総合評価					
成果と課題					
A	B	C	D	改善策・向上策	
○				素晴らしい体験を多くさせていただいている。課題解決、児童が主体的になるよう今後も単元展開の工夫が必要。見通しをしっかりと持って活動していきたい。	
○				今年度の方向で行きたい。授業の見通しをしっかりと持っていれば、どこでどの支援が必要か計画的にできる。学習の中心に地域を置き継続して追究できる内容を工夫していきたい。	
		○		「朝マラソンをして楽しかった。」「やてよかった」という実感を持ってよい工夫が必要。また、1年間継続するメリハリ、目標、働きかけをしていきたい。	
		○		児童の疑問から授業展開を進める授業研究をおこなった。単元訪問で指導主事の先生から指導をいただき、児童が主体的に活動する授業になった。	
		○		ICT授業を年に数回行うことができた。今年度はプログラミング学習にも取り組むことができた。また、体育と道徳の連学年授業の年間計画を研究し、来年度の土台作りができた。	
		○		はげみタイム、個別指導の時間はほぼ毎日継続することができた。個別指導を受けた児童は、「わかる」「できる」を実感し、学習への意欲を高めていた。	
		○		家庭学習シート等の活用により、自主勉強を楽しむ学習する児童が増え、家庭学習の習慣は身につけてきているが、個人の差が大きい。	
		○		気持ちの良い挨拶ができていると地域の方からも褒めていただいたが、長時間のゲームは増えている。だが、親子で協力しきちんとメディアと向き合っている家庭も多い。	
		○		保護者だけではなく、多くの地域の方にも学校行事に学校へ来ていただいている。年2回の学校評価や行事の評価からは好意的な意見をいただいている。ふれあい給食は好評だった。	
		○		あいさつ、メディアについては、児童だけではなく、保護者も一緒に行事を強く伝え、ずっと継続していきたい。学校運営協議会でも話題に取り上げ議論されている。	
		○		植村先生のご指導から学ぶところが多かった。子ども中心という視点でとても勉強になり意識を改めるきっかけになった。	
		○		児童指導に関わる各種研修は継続中だが、活動の際にお助け隊の方から地域の話しをいろいろお聞きできた。地域を知る研修を夏休みに持った。	

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった